



## Synesis version 3.0

### リリースノート

2017/03/06, build 174

## 1. 概要

本文書は、高速トラフィックキャプチャ装置 Synesis v3.0 のリリースノートです。

## 2. Synesis version 3.0 の新機能

- **RESTful API のサポート**
  - HTTP のリクエストによる各種操作が可能なインターフェースを追加しました。(Ref #1639)
- **自動保存機能の改善 (Ref #1048)**
  - 一日単位・時間単位のフォルダ別に自動保存するようになりました。
  - オートローテーションの方式を以下の 3 種類から選択できるようになりました。
    - ◇ 使用サイズベース
    - ◇ 日付ベース
    - ◇ パーティションサイズベース
  - バックアップファイルの保存先に予備(セカンダリ)のディレクトリを指定できるようになりました
  - 自動保存の失敗時やプライマリ・セカンダリ間の切り替えが発生した際に、通知の設定がされていた場合、通知を送信するようになりました。
- **GUI 操作性の改善**
  - 全般
    - ◇ [エージェント] 画面と[マイクロバースト] 画面で、レコード選択のペインを畳めるようになりました。同様に、[アラート] 画面と[AANPM] 画面で、検索ペインを畳めるようになりました。(Ref #2209)
  - 構成
    - ◇ 分割ファイルサイズの上限が GUI で変更できるようになりました。(Ref #2133)

- ◇ アラート・通知を新しく作成した直後のステータスが「有効」となるようにしました。(Ref #2454)
- ◇ 保存フィルタのフィルタ項目、パターンのオフセットの値として 16 進数で指定できるようになりました。(Ref #2134)
- ダッシュボード
  - ◇ 全チャンネルを表示しているチャートグラフで、特定チャンネルの表示/非表示を恒久的に切り替えられるようになりました。(Ref #1871)
  - ◇ トレンドチャートを再描画しなくなりました。(Ref #2321)
- エージェント
  - ◇ デコード画面でトレース保存ができるようになりました。(Ref #2033)
  - ◇ トレースの保存時にファイル名を変更できるようになりました。(Ref #2104)
  - ◇ トレースファイルタブでトレースファイルの作成者が表示されるようになりました。(Ref #2105)
  - ◇ レコードリストで、個々のレコードにロック情報を表示しました。(Ref #2123)
  - ◇ トレースファイル保存後でも説明を追加・編集できるようになりました。(Ref #2132)
  - ◇ 画面右上の再生/停止ボタンを押すことで、どの画面からでもキャプチャの開始/停止を行えるようになりました。(Ref #2140)
  - ◇ 一部モデルで各チャンネルのリンク状況を確認できるようになりました。(Ref #2149)
  - ◇ デコードにかかる時間を短縮しました。(Ref #2322)
  - ◇ 制御 PC の Wireshark 経由で行っていたリアルタイムデコード機能を、GUI から実行可能になりました。本機能は、キャプチャ開始前にあらかじめ有効化しておく必要があります。(Ref #2412)
  - ◇ レコードリストにあるボタンの並びを入れ替えました。(Ref #2437)
- AANPM
  - ◇ トレース保存時にフローフィルタのチェックを外せるようになりました。(Ref #2124)
- レポート
  - ◇ 周期レポートプランを新しく作成した直後のステータスが「有効」となるようにしました。(Ref #2454)
  - ◇ 新規プランの作成の際、同じレポートサイクルで同じレポート名（ドキュメントタイプまで含む）の重複チェックを行うようになりました。但し、既存のプランの変更時は対象外となります。(Ref #1933)

- マイクロバースト
  - ◇ 発生グラフと時刻グラフを統合し、ズームイン/ズームアウトできるようになりました。(Ref #2122)
  - ◇ チャンネルごとにグラフ・テーブルへの表示/非表示を切り替えられるようになりました。(Ref #2208)
  - ◇ レコードの選択が[エージェント] 画面と同様のものになりました。(Ref #2217)

### 3. 廃止された機能

Wireshark によるリアルタイムデコード機能は廃止されました。今後は GUI 上のリアルタイムデコード機能をご利用ください。

### 4. 新モデル

本バージョンで追加された新モデルはありません。

### 5. 修正された問題

下記の問題は、本バージョンで修正されました。

- ポート範囲に "-" を用いて定義されたアプリケーションは、デコード画面のフィルタ式で指定しても、正しく適用されません。(Ref #2205)
- ダッシュボードページ上の DLC グラフについて、任意のチャンネルを複数選択して表示させることができません。1 つずつまたは全チャンネルのみを表示できます。(Ref #1267)

### 6. 既知の問題

- APM のページにおいて、新たに登録したサイト、サーバーグループはウェブページをリフレッシュするまで反映されません。(Ref #130)
- マイクロバースト解析または APM 解析を行っていないにもかかわらず、レコードリストのページからマイクロバースト、APM ページへ移動するボタンを押すことができます。(Ref #367)
- キャプチャ中のレコードの名称を変更しても、キャプチャ終了時に変更前の名称に戻ります。(Ref #1114)
- バックアップされたレコードに対し、マイクロバーストの閾値の変更機能を行うと、結果が表示されません。リセットを行えば、元々の解析結果が再度表示されます。(Ref #1507)
- SNMP トラップトリガによるロック機能では、入力したコミュニティ以外のトラップによってもロックが追加されます。(Ref #1721)

- ディスクの空き容量が十分にある場合でも、ディスク容量不足の警告が表示される場合があります。(Ref #1725)
- メモリ使用量が多い状態でバックアップを実行すると、タイムアウトによりバックアップの作成に失敗することがあります。(Ref #1752)
- フィルタ画面で、新規フィルタを作成する画面を開いた際、前回入力した値がそのまま表示されます。(Ref #1754)
- デコード画面でフローフィルタを使用し、IPv6 のアドレスを “::” で省略した場合、フィルタが正しく適用されない場合があります。(Ref #2178)
- デコード画面の保存フィルタを使ってトレース保存した場合でもトレースファイルタブの保存フィルタの一覧に表示されません。(Ref #2620)
- デコードタブを開いたまま、デコード対象のトレースを削除した場合、タブが残り続けます。(Ref #2637)
- 不正形式のフレームが大量に含まれているレコードをデコードさせると、GUIが停止することがあります。(Ref #2645)
- Email の通知機能と DLC アラート機能が同時に有効の場合、DLC グラフの描画が不安定になります。(Ref #2653)
- キャプチャ中のレコードの統計情報は、エージェント・ワークスペースのレコードタブからはエクスポートできません。キャプチャレコード・ワークスペースからエクスポートを実行してください。(Ref #2665)

## 7. 制限事項

- レポートテンプレートを日本語の文字を含めて作成し、英語設定のブラウザでレポートを作成すると、日本語が文字化けします。(Ref #1138)
- ダッシュボード上で DLC グラフを追加する場合、追加時に対象のチャンネルを指定できません。デフォルトはチャンネル A になっており、編集画面にて変更することができます。(Ref #1230)
- 統計情報をエクスポートしたレコードに対してバックアップを行った場合、作成済みの統計情報がバックアップされません。再度統計情報をエクスポートし直すことはできます。(Ref #1512)
- アラートページから各アラートのトレースファイルを作成しようとした場合、ソフトウェアフィルタが自動では適用されません。デフォルト設定では該当の期間の全パケットが保存されます。(Ref #1466/#1649)
- マイクロバースト解析を行った 5 分未満のレコードをバックアップした場合、リストアしてもマイクロバーストの解析結果が表示されません。5 分以上のレコードであれば正常に表示されます。(Ref #1506)

- 各チャンネルのリンク状況を確認できるモデルで、キャプチャ開始直後の統計情報のステータスが"unknown"と表示されることがあります。(Ref #2590)
- バックアップされたレコードに対し、選択した時間範囲の統計をエクスポートしようとする、それが実行できない旨のエラーが表示されます。全範囲のエクスポートは実行可能です。(Ref #2643)
- 検出したマイクロバーストのアラームは最大 500 個までしかテーブルに表示できません。
- リモートデスクトップから LibreOffice スイートを使用する場合、メニューのショートカット表示が "???" のように文字化けします。
- キャプチャ期間が 5 分未満のレコードでは、APM 解析の結果が検出できないことがあります。APM 解析を行う場合には 5 分以上キャプチャしたレコードに対して行ってください。
- キャプチャ開始後 2 秒間はパケット数などの統計情報がカウントされません。
- SYS-20G-HPP、SYS-40G-HPPにおいて、起動後 90 秒程度はキャプチャ開始ボタンを押せず、キャプチャを開始することができません。これはディスクのウォームアップを行っているためです。キャプチャ開始ボタンが押せるようになるまでお待ちください。
- マイクロバースト解析はチャンネル A～D に対してのみ実行できます。SYS-8G2-HPR モデルでは、チャンネル E～H のデータはマイクロバースト解析できません。
- トレースファイルのサイズが 256 MB より大きい場合、デコード機能へのリンクが表示されません。
- 自動保存機能の保存先としてネットワークマウントを行っているディレクトリを指定する場合には、マウント時に適切にタイムアウトを設定する必要があります。
- デコード機能でトレース保存をした場合、期間・パケット総数によっては全パケットを保存できない場合があります。
- 自動保存機能は、キャプチャ停止の直前 10 秒間のパケットは保存されません。

以上